

Title	『藝文研究』総目次 (第一号-第五十号)
Sub Title	General index to The Geibun-Kenkyu (No.1-No.50)
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1987
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.51, (1987. 7) ,p.111- 133
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00510001-0111

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『芸文研究』総目次（第一号—第五十号）

◇第三号（一九五四年一月）

実用の文学——女と花……………森 武之助
住吉物語以後——継子奇め譚の類型に關する一考察……………松本隆信

◇第一号（一九五一年二月）美術学特集
創刊の辭……………西脇順三郎

ミケルアンジェロの聖母……………守屋謙二
光琳肖像考……………菅沼貞三

江戸板木絵第一回の開花期……………渋谷清
播磨国常福寺裏山経塚出土品に縁つて……………保坂三郎
大仏師康助の遺作に就いて……………岡直己

Palazzo Pitti——その原作者の問題に關して……………相内武千雄

彙報

◇第二号（一九五三年二月）

物語の成長——宇津保物語の場合……………池田弥三郎

俳諧月花の座……………清崎敏郎

ジョン・セルデンのこと——その「茶話」をめぐって……………藤井昇

ジュリアン・グリーンの内心の旅路……………佐分純一

ブッデンブローック以前……………江沢建之助

西ドイツ文学活動の展望……………田中次郎

彙報

彙報

◇第四号（一九五五年二月）

伝統の周囲——芭蕉・西鶴……………森 武之助

寺院僧侶の国典研究——主として中世期をとりあげて……………佐佐木一雄

曾我物語伝承論……………塚崎進

紅樓夢の小説性——周汝晶の「紅樓夢新證」をめぐって……………村松暎

若きヘッセの人生態度乃至世界觀……………井手貢夫

反抗と絶望の黒人作家——Richard Wright……………安原基輔

現代英文法の諸傾向——特に口語法について……………原沢正喜

折口信夫教授講義題目

慶応義塾大学所蔵聊齋志異関係資料目録

彙報

◇第五号 (一九五五年二月)

好色五人女——成立をめぐる試論……………	檜谷昭彦
近松世話物の考察(序)……………	鈴木昇
曾我物語伝承論——その二……………	塚崎進
紅樓夢論争に対する批判……………	村松暎
トーマス・マンのゲーテ観——「ヴァイマルのロッテ」を中心として……………	小名木栄三郎
対話文学としての「ラモーの甥」——デイドロ研究序説……………	原宏
資料紹介——「東洋之佳人」稿本、「絵入読本外題作者画工書肆名目集」写本……………	森武之助

◇第六号 (一九五六年二月)

明恵上人説話考……………	佐佐木一雄
稿本聊齋志異考勘記……………	藤田祐賢
曾国藩について……………	佐藤一郎
“中国に於ける品詞分類の標記について”……………	川本邦衛
“——”漢語詞类论争“の問題点”……………	瀬下良夫
シェリーにおける神の問題……………	
リルケ文学解明におけるハイデッガーの……………	

誤謬

アルベール・カミュの思想と風土について

——(ジャン・グルニエとの比較による)

一考察

彙報

◇第七号 (一九五七年二月)

野守鏡にみられる宗教性……………	佐佐木一雄
おせんとおさん——西鶴の場合……………	竹重信幸
ヘルマン・ヘッセに於ける東洋思想概観……………	飯田国男
アンドレ・ジッド「ユリアンの旅」の成立について……………	若林真
ラシーヌの“La Thébaïde ou Les frères ennemis”について……………	佐藤真
イェイツと能・序説 “At the Hawk’s Well” と “The Only Jealousy of Emer” に関する考察を中心として……………	石橋裕
曾国藩と俗文学……………	佐藤一郎
Plautus における感嘆及び疑問の ut + 直説法又は接続法の使用について……………	藤井昇
資料紹介——炎涼岸・女開科伝・知不足齋原本批点聊齋志異……………	藤田祐賢
書評——Erwin Panofsky’s <i>Early Neth-</i>	

erandish Painting—Its Origins and

Character

八代修次

彙報

◇第八号 (一九五八年一〇月) 慶応義塾創立百年記念

小沢蘆庵論

香川景松

源氏物語における「いろいろの」の概念

西村亨

もうひとつの忠臣蔵——四谷怪談考——

仲井幸二郎

伊勢物語真名本に就いて

伊藤哲夫

内部の論理——ロマン主義詩学の興起に

由良君美

かんする一考察

鈴木周二

シエクスピア喜劇に於ける扮装

高山鉄男

「ブルネレスキの穹窿」

相内武千雄

浮彫の種類について

海津忠雄

ツァワソ著聖成吉思可汗の金言

田中市郎衛門

彙報

◇第九号 (一九五九年一二月)

『太平記』作者の思想——「北野参詣人政

道雑談事」に現われた政道観につい

て——長谷川端

〈把「ps」を含む形式について——そ

の統辭論的分析——

川本邦衛

ジェン・ダンの「The Exstasie」——詩

の構造に関する一考察

和田旦

絶対詩の課題の一つ——ヴァレリ・ゲオ

ルゲ・ベン——

深田甫

ジェラール・ド・ネルヴァルに於ける

「自然」のイマージュに就いて

小浜俊郎

Malory の「The Tale of the Morte

Arthur」の言語について——Malory

小川繁司

の英語の成長と体系——

The Book of the Duchess に関する一

考察

小長谷弥高

彙報

◇第十号 (一九六〇年六月)

日本靈異記下巻第三十八縁に就て

福島行一

浜松中納言物語に於ける唐土の問題

池田利夫

列女説話の伝承について

林恵一

『老水夫』のモラルと「千一夜物語」の

寓喩——

由良君美

クルト・マイによる『マイスターの修業

時代』解釈の問題点について

猿田恵

『さかしまに』とポール・ヴァレリー

山田直

彙報

◇第十一号 (一九六一年一月)

再び Palazzo Pitti について

東海道四谷怪談と南北

「まほし」の性格につきての一考

——とくに「まくほし」との対比において——

戸田茂睡の系族

詞品論攷——Three Ranks 採用の可否

について

「アッケルマン」の周辺

実存主義の歩み——サルトル作「アルト

ナの幽閉者」をめぐって——

上田秋成の美意識につきて

The Green Knight Ⅱ The Beheading

Game——中世ロベネスク文学の構

成

彙報

◇第十二号 (一九六一年七月)

「犬」——Bild-Welt und Ding-Welt——

鉄輪考

藤原定家の和歌——価値観の変遷と歌風

の変遷をめぐる一考察——

「日本霊異記」に於ける訓釈に就いて

相内 武千雄

寺崎 初雄

武井 睦雄

戸田 勝久

川本 邦衛

尾崎 盛景

永戸 多喜雄

藤江 正通

池上 忠弘

塚越 敏

長尾 一雄

馬場 邦夫

中林 英子

方苞の散文——その形式をめぐる——

「タンホイザー」に関する若干の基礎的

事項について

ハインリヒ・フォン・シュタインの美学

思想

ブルーストの文体における「比較」につ

いて

現代英語の特質と諸問題——Ernst Leisi

の方法論——

彙報

◇第十三号 (一九六一年十二月)

「犬」(2)——Der Hund als Esau in

seinem Fell——

一音節語の名詞の運命

悪の存在について

表現主義的人間(1)

「鹿相の美」をめぐる

Cliche 序論(3)——モームの文体と

Cliche——

“Mademoiselle de Maupin の Préface”

彙報

佐藤 一郎

荒井 秀直

高橋 巖

岡本 善孝

安東 伸介

塚越 敏

池田 利夫

足立 康

宮下 啓三

藤江 正通

富永 道夫

大浜 甫

◇第十四・十五合併号 (一九六三年一月)

西脇順三郎先生記念論文集

契沖に関する考察……………	久松 潜 一
万葉集 巻五 男子名古日 三首……………	佐藤 信 彦
もの言う枕……………	池田 弥三郎
失われたる古写本の出現……………	森 武之助
歌舞伎の「花道」の意味……………	戸板 康 二
小説家としての李笠翁……………	村 松 暎
論賛と随想の流れ……………	藤 田 祐 賢
わが画歴の一節……………	守 屋 謙 二
近世日本文化の構造分析……………	洪 井 清
自性寺の大雅……………	菅 沼 貞 三
Sir Launfal の成立……………	厨 川 文 夫
Walter Pater への Medetatio Morris……………	河 口 真 一
象徴主義の実体をもとめて……………	上 田 保
Dryden と Rymer の思想的交流……………	岩 崎 良 三
二十世紀アメリカ小説の現代的性格につ いて……………	大 橋 吉之輔
Martialis の女性(Female Figures in Martial)……………	藤 井 昇
Sir Gawain and the Green Knight における the Temptation にこころ……………	池 上 忠 弘

George Steiner and / or Lawrence……………	山 良 君 美
チヨースーに於ける Nature の問題……………	安 東 伸 介
Sutton Hoo Ship-Burial への Beowulf について……………	尾 藤 充

ゲーテと中世のミンネ……………	相 良 守 峯
フランスにおけるファウスト……………	大 野 俊 一
Erlebnislyrik の先駆者……………	一ノ瀬 恒 夫
リルケとクレール(Rilke und Klee)……………	塚 越 敏
ボードレールとギヤ……………	佐 藤 朔
Montherlant の《Port-Royal》をめぐ って……………	二 宮 孝 顕

『嘔吐』の成立とその意義……………	白 井 浩 司
《Paludes》の成立とその意義……………	若 林 真
Lai de l'Oiselet にこころ……………	松 原 秀 一
Diosuri di Monte Cavallo……………	相 内 武 千 雄
西 脇 順三郎(年譜・作品目録) 彙 報……………	

◇第十六号 (一九六三年一〇月)

万葉集における「おもふ」について……………	土 田 将 雄
「やちめこと」の諸本の考察……………	東 浦 佳 子
戴名世・方苞の交遊より見たる桐城派古 文の成立……………	佐 藤 一 郎
蕩児と覚者——Huxley 小論——……………	上 村 達 雄

「いびとたち」の世界——ハロルド・ピ

ンターの側面

表現主義的人間(二)

フランス中世文学の写体と校訂法

サルトルのドラマツルギー

Walter Pater の文体

Goethe-Dämon

集報

◇第十七号 (一九六四年二月)

恋からみた恋歌

因果物語試論

元雜劇做工考

ベルン時代のヘルマン・ヘッセ

プルスートにおける詩的現象学

古英語散文の語順

集報

◇第十八号 (一九六四年九月)

浜松中納言物語の夢(上)——その語彙の

頻度について

古代葬制と殯宮挽歌と

聊齋俗曲考

ハムレットの謎

ジャーヒリーア詩の象徴性について(上)

鈴木周二

宮下啓三

松原秀一

調佳智雄

武田勝彦

越塚信行

西村亨

榎谷昭彦

岡晴夫

井出貢夫

桜木泰行

山本晶

池田利夫

桂芳久

藤田祐賢

中村保男

——詩集「ムアツラカート」を中心と

して

哀悼

西脇順三郎論

三浦孝之助年譜・著作年表

文名に対するローマ文人の憧憬

樋口勝彦年譜・著作年表

集報

◇第十九号 (一九六五年一月)文学・芸術に現われたる女性像

遊女と地おんな——近世文学の女性観——

中国文学に現われたる女性像について

西洋古典(ギリシア・ローマ)文学の立場から

中世英文学に於ける女性像

近世イギリスについて一言

中世仏文学の恋愛観と女性像

美術に現われた女性像

浜松中納言物語の夢(下)

日本靈異記下巻第一話の考察

カフカの「変身」における基礎的問題点

ジャーヒリーア詩の象徴性について

黒田寿郎

佐藤 朔

三浦孝之助

樋口勝彦

榎谷昭彦

村松 暎

藤井 昇

安東伸介

由良君美

松原秀一

八代修次

池田利夫

辻 英子

黒岩純一

黒田寿郎

マルセル・ブルースト序説……………森 昌 巳

The Language of Lagamon's Brut……………岩 崎 春 雄

彙 報

◇第二十号 (一九六五年二月)

筋馬考……………井 口 樹 生

万葉集における霍公鳥の歌……………土 田 将 雄

物語という語の二つの性質について……………大 輪 靖 宏

「Feige no monogatari」の研究——問答

の研究——その(一)……………東 澄 子

昂有光の系譜……………佐 藤 一 郎

グレゴリウスにおけるハルトマンの人間

観……………大 橋 修 子

ニーチエの「遊戲」が意味するもの……………鈴 木 威 子

トマス・アクイナスの芸術観……………高 野 啓 一 郎

チヨースーとテイル・ライム・ロマンス……………岩 崎 春 雄

アルベール・カミュの青春——その歴史

に於ける起点と、その意味を求めて——

……………片 山 左 京

書 評

高野正巳著「近松とその伝統芸能」……………檜 谷 昭 彦

加賀栄治著「中国古典解釈史——魏晉篇——」……………藤 田 祐 賢

マーカス・クライン著「疎外以後——現

代アメリカ小説論」……………大 橋 吉之輔

佐分純一著「ジュリヤン・グリーン——

魂の遍歴——」……………若 林 真

「等伯画説」——源豊宗考註……………河 合 正 朝

Albrecht Schöne: Emblematik und

Drama im Zeitalter des Barock……………中 田 美 喜

彙 報

◇第二十一号 (一九六六年四月)

実朝の本歌収の歌……………松 原 多 仁 子

ジャン・パウル「生意気さかり」におけ

る「教養小説」形式の破綻……………池 田 浩 士

パスカルの宗教思想と数学思想……………加 藤 勝

The Language of Malory's 'Tale of

King Arthur'……………齊 藤 慶 司

The Language of Lagamon's Brut (II)

……………岩 崎 春 雄

書 評

“Three Modern Satirists: Waugh, Orwell,

and Huxley” by S. J. Greenblatt (1965)

について……………上 村 達 雄

アンドレ・ヴェルムセル「非人間的な人

間喜劇」について……………高 山 鉄 男

Walter Hinck: Das deutsche Lustspiel
des 17. und 18. Jahrhunderts und die
italienische Komödie……………中 田 美 喜

彙 報

◇第二十二号 (一九六六年一月)

嚴復私論——翻訳論や文芸觀よりみて……………岡 本 宏
Edvard II における Tragic Vision……………池 上 忠 弘
John Donne: Songs and Sonets に於ける Death に關して……………山 田 隆 一

漱石のスイフト觀について……………海 保 真 夫
書 評
横山 重編「古浄瑠璃正本集」……………松 本 隆 信

The New Radicalism in America, 1889—
1963: The Intellectual as a Social Type.
By Christopher Lasch……………加 藤 弘 和

ボル・ツムトール「ロマン期の詩の言語
と詩法」……………松 原 秀 一

Art Nouveau: Art and Design at the
Turn of the Century, ed. by Peter
Selz and Mildred Constantine……………安 倍 富 子

彙 報

◇第二十三号 (一九六七年二月) 佐藤朔先生還暦記念論文集

第一部

サルトルにおける「言語」の問題

——Scripta manent——……………白 井 浩 司

ランボーとマラルメ——或いはモンドー

ル博士への反論……………朝 吹 三 吉

ジロドウの《ラシーヌ論》……………鬼 頭 哲 人

アントナン・アルトーにおける「残酷劇」

Le théâtre de la cruauté について……………永 戸 多 喜 雄

告白的文学における愛の問題——三つの

近作をめぐる試論……………佐 分 純 一

ハイネとネルヴァル……………大 浜 甫

『テレーズ・デスケール』から『贖金

つかい』へ……………若 林 真

聖アレクシウスの妻……………松 原 秀 一

アルベール・カミュとシモーヌ・ヴェー

ユ……………片 桐 邦 郎

「自然の模倣」について——ディドロの

美学に関する一考察……………原 宏

Les Fondements Linguistiques De L'audio-

visuel……………YUSO KUWABARA

アルベール・カミュの文学的出発をめぐ

くつて——『南』から『幸福な死』ま

で……………高 畠 正 明

O.V.de L. Milosz 中期の詩篇について

小 浜 俊 郎

ブルーストと色彩——「aure」系の色彩

櫻 木 泰 行

語をめぐって

高 山 鉄 男

「プチ・ブルジョア」主題考

La Naissance de Brulard——Essai sur les conditions de la naissance d'un poète.

KENZO FURUYA

第二部

SIR ORFEO の構成と意味

厨 川 文 夫

言語のフォークロア——「奴詞」を中心

池 田 弥 三 郎

にして

塚 越 敏

Pieter Bruegel——素描による教訓画の

一 解 釈

八 代 修 次

魯迅雑文中のロマン・ロラン

佐 藤 一 郎

第三部

淡路町時代

奥 野 信 太 郎

朔さんのこと

横 部 得 三 郎

祝 辞

田 中 千 禾 夫

佐藤君の思い出

蘆 原 英 了

Enfin, Malherbe vint.

大 久 保 洋

佐藤先生と私

二 宮 孝 顕

S・S氏

Le Portrait Sentimental

堀 田 善 衛

先生と私(佐藤朔先生のこと)

芥 川 比 呂 志

佐藤先生の弟子

梅 田 晴 夫

佐藤朔(略年譜)

遠 藤 周 作

著作目録

集 報

◇第二十四号 (一九六七年一二月)

『細雪』の美

天 野 久 江

中国の羽衣説話(その分布と系譜)

君 島 久 子

ハンス・ヘニー・ヤーンのメディア劇について

沼 崎 雅 行

へ新しい革袋を求めて——初期哲学作品

における Diderot の表現形式について

一 木 瑠 美

海北友松(その伝記と研究)

河 合 正 朝

ピエール・ボナール——自然への回帰

安 倍 富 子

現代フランス語における動詞時称体系についての一考察

日 高 佳

Stendhal et l'affaire Corleys

古 屋 健 三

バスカルにおける宗教的基盤

加 藤 勝 史

Pearl に於ける言語の研究

安 倍 博 史

Marlowe の Religious Attitude	黒川高志
書評	
Erich Auerbach: <i>Mimesis-Darstellung</i>	深田甫
The Mozart Companion	大野洋
Tetsuo Takayama: <i>Les Oeuvres Romanesques acortées de Balzac</i>	大浜甫
資料紹介	
曾根崎心中——竹本義太夫の正本について	波井清
彙報	
◇第二十五号 (一九六八年三月) 英語英文学・独語独文学特集	
The Virtuosity of T. S. Eliot	西脇順三郎
The Middle English St. Brendan's <i>Confession and Prayer</i>	厨川文夫
Some Allusions to Petronius in Contemporary English Literature	岩崎良三
A Note on Chaucer's Conception of Nature	安東伸介
A Peculiar Feature in the Word-Order of Lagamon's <i>Brot</i>	岩崎春雄
Sherwood Anderson ノート	大橋吉之輔
CATVILVS の語法	藤井昇
14世紀地方言文学地図——ロマンスと主	

要作品を中心として	池上忠弘
<i>The Monk's Tale</i> に関する一考察	小長谷弥高
「自己」と「神」の間——D. H. ロレンスの「新しい天地」における「他者」相見の意義について	海野厚志
「闇の奥」コンラッド研究(1)	上村達雄
『白鯨』の一解釈	山本晶
理想主義者 Brutus——人間性の探索	石川実
政治家としてのスウィフト	海保真夫
Metaphor について (1)	山田隆一
St. Juliana の語順	柳原伊織
OE 詩における Da 構文——とくに <i>Beowulf</i> の場合——	小田卓爾
Faustischer Mensch *Eine Methode zur Faustforschung*	越塚信行
リルケにおけるナルシスの変容	小林栄三郎
「さきよえるオランダ人」伝説考	荒井秀直
ビッグマリオン——ルソーとゲーテの二つの出会い	小堀桂一郎
初学者のためのカナによるドイツ語発音表記法試案	鉄野善資
ファウストとヘレナの出会い——「ファ	

ウスト」第二部第三幕の一つの解釈——

カフカの作品における時間概念……………鈴木 嘉久

Nibelungenlied における動詞前綴 ge-……………石川 光庸

後藤末雄先生を悼む……………佐藤 朔

後藤末雄略年譜・著作年表

彙 報

※第二十五号のうち英語英文学関係の論文を『英語英文学特集』、独語独文学関係の論文を『独語独文学特集』として
分冊

◇第二十六号（一九六八年十一月）

「新勅撰集」中の実朝の歌……………松原 多仁子

Feige no monogatari の研究——問答

の研究——その(一)……………増田 澄子

「ロード・ジム」コンラッド研究(II)……………上村 達雄

カフカの『城』——測量師Kの闘い——……………黒岩 純一

トーマス・マンの変貌——「魔の山」へ……………坂口 尚史

の一試論……………山口 佳己

ランボーの詩的想像力と「場」……………山口 佳己

W. A. Mozart の交響曲の時代区分に

関する一考察——第一楽章の分析を中

心に……………大野 洋

書評

三隅治雄著「日本舞踊史の研究」……………西村 亨

Moshé LAZAR: AMOUR COURTOIS

ET "FIN" AMORS" DANS LA

LITTÉRATURE DU XII^e SIECLE

……………松原 秀一

アンリ・ペリュシヨ「スーラの生涯」……………末吉 雄二

彙 報

『芸文研究』総目次

自第 I 号—至第 XXV 号

◇第二十七号（一九六九年三月）

「萬の文反古」の成立……………檜谷 昭彦

蒙求和歌の成立と伝流——その諸伝本を……………池田 利夫

めぐって……………長谷川 端

太平記の評価に関する一・二の問題……………坂本 育雄

野上弥生子の道程……………坂本 育雄

細川幽斎家集の研究 その二——衆妙集……………土田 将雄

系統諸本について……………長尾 一雄

能楽ワキの種々……………長尾 一雄

釈元政の文学における心と狂——一つの……………長尾 一雄

近世日本公安派文学序説ならびに論——

武野紹鷗論——宗朝を中心として武野家 の茶の湯を探る——	戸田勝久
「皇御孫命」考——その語義と位置とを めぐって——	井口樹生
春雨物語論	大輪靖宏
鏡と変身の演出	早川雅水
如儡子とその作品——「可笑記」その一	関場武
賈宝玉を通して見た「紅樓夢」の思想	村松暎
聊齋氏譚考	藤田祐賢
梁啓超における「文学」	佐藤一郎
元曲における「コミック・リリーフ」に ついて	岡晴夫
白氏諷諭詩考——平安時代の受容をめぐ って——	太田次男
伝奇漫録小攷	川本邦衛
江戸時代李賀関係資料彙編	草森紳一
羽衣覚書——飛翔と変身——	君島久子
奥野信太郎年譜	村松暎
奥野信太郎著作目録初稿	
彙報	

◇第二十八号（一九七〇年二月）

トハズガタリ——「カタリ」の一形態——	伊東肇
〈源氏物語における意義〉	
大洲市立図書館蔵「一もと菊の物かたり」	
「ポール・ロワイヤル」研究への道	松本隆信
ネルヴァルの「幻想」に関する動性（そ の二）——Illusion から Inlusio への 劇——	小湊昭夫
「モールドンの戦」の歌（第一部）——	井田三夫
その史的背景と詩人の内面——	小田卓爾
書評	
H. F. IMBERT : LES METAMOR- PHOSES DE LA LIBERTE ou Stendhal devant la Restauration et le Risorgimento	古屋健三
Gervase Mathew : <i>The Court of Richard II</i>	池上忠弘
彙報	
◇第二十九号（一九七〇年五月）美学美術史特集	
竹田の給窓小戯帖	菅沼貞三
彫刻と風景——ヘンリームーア彫刻試 論——	八代修次

アメリカにおける日本美術享受の様相……………衛藤 駿
死の像におけるデューラーとホルバイン……………

Haydn 像の変遷……………中野 博 詞
全人教育と美術の役割……………高 野 啓 一 郎

ハーバート・リード論のためのプロローグ……………酒 井 忠 康

キュービズム……………末 吉 雄 二
ムシャッターとサーマッラーの装飾文様……………

……………水 野 美 奈 子
詩と造型美術——ジョン・キーツ覚え書……………相 島 倫 嘉

W. A. Mozart の交響曲の時代区分に
関する一考察（そのⅡ）——第一楽章……………大 野 洋

第一主題の構成を中心に……………大 野 洋

彙 報

◇第三十号（一九七一年三月）

“殺し場”その舞台設定の意義……………早 川 雅 水

潘佩珠の初期の著作について……………川 本 邦 衛

アルベール・カミュと「新しい地中海文化」
——一九三七年から三九年の幾つかの
未刊行資料をめぐって……………高 島 正 明

ゲーテとカント——根本現象について……………高 橋 義 人

La Rochefoucauld における遊びの精神

（一）——遊戯の相の下に見たその作品
と人……………村 越 品

戯曲《Caligula》のドラマトウィルジック

な一考察——Caligula の人物構造
と Corps de pièce の構造について……………片 山 左 京

Forms of Autobiographical Literature:

The Problem of Artistic Intent in
DAZAI OSAMU……………Phyllis Lyons

「御氣に召すまま」——Romantic Love

に対する批評精神の獨創性……………金 原 正 彦

書評 池田弥三郎著「高市黒人・山部赤
人」……………檜 谷 昭 彦

彙 報

◇第三十一号（一九七二年二月）

鳥のあそび考——古代鎮魂の一考察……………

……………西 村 亨
黒本・青本・黄表紙等草雙紙簡明書誌備
要……………檜 谷 昭 彦

ユダヤ人の排斥とカフカ……………黒 岩 純 一

La Rochefoucauld における遊びの精神
（二）——遊戯の相の下に見たその作品……………

と人……………村越晶

Marlowe 及 *Doctor Faustus* ……黒川高志

The Seafarer の構造と意味 ……尾藤充

彙報

◇第三十二号 (一九七三年二月)

元曲・明曲における「夢」……………岡晴夫

中宮亮兼房をめぐる……………川村晃生

フォンターネの小説におけるパースペク

ティヴ——「ジャッハ・フォン・ヴー

テノー」解釈の試み……………筑和正格

Pensées détachées sur la «Poétique»

—— *Une Lecture du Prologue du*

Neveu de Rameau……………鷺見洋一

Malory の 'Tale of Gareth'——その超

自然人物について……………高宮利行

◇第三十三号 (一九七四年二月)

白詩受考——「香爐峯雪撥簾看」につ

いて……………太田次男

雨月物語の成立と展開……………大輪靖宏

「白猿伝」の系譜……………成行正夫

トーマス・マンのニーチェ観……………松本要

シュティフター文学に於ける人間と自然

……………真田収一郎

シュティフターの「深い森」における視

座の転換

Les Noces d'Herodiade de Mallarmé (1) ……中村康二

……………立仙順朗

Sir Eglamour of Artois の 'Sens' ……池上忠弘

The Language of Lagamon's Brut (3)

—— *Verbs*……………岩崎春雄

彙報

◇第三十四号 (一九七五年二月)

定家にみられる西行観——その評価をめ

ぐる……………寺沢行忠

孫悟空と白猿伝説……………成行正夫

出来事の変移——クライストの「ア

ンフィートリェオン」について……………内田俊一

Les Noces d'Herodiade de Mallarmé (11)

……………立仙順郎

The Language of Lagamon's Brut (4)

—— *Verbs*……………岩崎春雄

Malory の 'Tale of Gareth'——その構

造・意味・性格描写……………高宮利行

彙報

◇第三十五号 (一九七六年二月)

接頭辞としての「いぬ」「きつね」など

対立の原理と変身の原理について—— 吉村 洪

一九一〇年代前半のホーフマンスタール喜劇の特徴—— 志賀浪 優子

現代中国語におけるいわゆる「補語」について—— 山下 輝彦

Les Clochers de Martinville; Composition 早川 基

Faubert の Dictionnaire des idées reçues 木之下 忠敬

につづいての一試論——

彙報

◇第三十六号 (一九七七年三月) 森武之助教授退任記念論文集

延慶本「平家物語」の一側面—— 牧野 和夫

元雜劇における空間形成—— 岡 晴夫

シュトウルム・ウント・ドラングの戯曲—— そのシェイクスピア受容のありか

たと、若きシラーの劇作に見る特性—— 鶴殿 博喜

森武之助教授退任記念論文集

残山剩水の記—— 森 武之助

契沖書入本源氏物語の探索—— 養寿庵

旧蔵源氏物語をめぐって—— 池田 利夫

『雨月物語』における「貧福論」の位

置 大輪 靖宏

毛利貞斎編『増続大広益会玉篇大全』

馬琴の俠——「開卷驚奇俠客伝」以前—— 関 場 武

能因の旅追考—— 美濃・伊予下向について—— 川 村 晃生

花の下連歌初期の諸相

慶応義塾図書館蔵『新編覆轡集』について—— 鈴 木 康正

初期田山花袋論—— 紀行文と小説との 林 望

谷間——

Senbhai と Napoleon 伝説——

ランボーに於ける「新しい肉体」の創造—— 宮 内 俊介

カフカと Hyperion 誌—— 竹 内 富美子

The Greville Memoirs とその作者について—— 山口 佳己

A Note to the Lagamon Texts—— 黒 岩 純一

彙報 海 保 真夫

◇第三十七号 (一九七八年二月) 岩 崎 春雄

明治期虚子俳句 資料と考察——「日盛

会句稿」に関連して—— 本 井 英

自我の深淵と狂気——『レンツ』におけ

る人間存在の基本問題——

フランツ・カフカにおける視線と視覚的

表現——

Alain Robbe-Grillet 『Dan le Labyrinthe

(迷路のなかで)』: 小説構成に関する一

考察——

シェイクスピア作『以尺報尺』の喜劇場

面——

“WHAT MUST BE SHALL BE”

—— A Critical Comparison of *Romeo*

and Juliet and *Cymbeline* ——

彙報

◇第三十八号 (一九七九年二月)

鏡花戯曲における『沈鐘』の影響——

毛沢東文芸路線と現代中国作家——

ミルトンと背教者——『失樂園』のアプ

ディエルをめぐる——

リルケ『フィレンツェ日記』におけるル

ー・ザロメの「神」——

E・H・ノサックの輻晦と表現——『ダ

ルテス事件』を中心に——

もう一人のソシユール——ソシユールの

『アナグラム』について——

ランボー「喪と不寝番」の諸相——

彙報

◇第三十九号 (一九八〇年二月)

『続色葉拾要抄』『伊呂波拾要抄』——

二種のまればと伝承——

『夢十夜』における民俗的要因——

文化大革命と知識人——呉略の抵抗とそ

の文学——

馮氏一家之学——

受難物語としての『ヴェルター』——そ

の宗教的背景についての一考察——

アーダルベルト・シュティフター——そ

の『晩夏』への軌跡——

もう一人のソシユール(II)——ソシユ

ールの原典資料の調査から——

La signification du refus——Une

lecture d'*Amanca*——

レッシング寓話論と散文および韻文寓話

——

De Profundis 再考——深淵における

Wilde の思想——

古代英語謎詩七十四——

小松英輔

山口佳己

閨場

皆川隆一

鈴木覚雄

小山三郎

今原和正

佐野俊夫

西村正身

小松英輔

後平隆

渡辺直樹

中村恵子

小田卓爾

彙報

◇第四十号 (一九八〇年九月)特集・文学と都市

緒言……………	白井浩司
シンポジウム「文学における東京」……………	
池田弥三郎・若林 真・中田 美喜・安東 伸介	
釈迢空「東京詠物集」をめぐって……………	
よみのころみ……………	岩松 研吉郎
地方出身者の文学——ひとつの自然主義論……………	宮内 俊介
平安京風俗二題——災厄と田楽……………	川上 新一郎
蔵役人福沢百助をめぐる大坂文壇……………	佐藤 一郎
アメリカの夢……………	山本 晶
スウィフトと田園賛美の思想について……………	海保 真夫
ペルリオン物語——文学首都の成立まで……………	中田 美喜
鎖を解かれた諷刺精神——一八四八年ウイーン喜劇……………	宮下 啓三
「しかも今、場所は巴里」——永井荷風とパリ……………	古屋 健三
◇第四十一号 (一九八〇年十二月)	
僧正遍照——その詠歌の特質をめぐって……………	川村 晃生
打ち出でてみれば——逢坂山と近江の	

水……………島崎 良

杜甫・秦州時代における隠逸的傾向の主

因について……………人見 豊

『史記』滑稽列伝における人物描写につ

いて……………星野 春夫

英語における SEXISM と反 SEXISM

……………唐須 敦光

下降・上昇・墜落——A Portrait of the

Artist as a Young Man なら Ulysses

……………足立 健次

カフカの作品における自伝的要素

——『変身』『巢』をめぐって……………黒岩 純一

Mademoiselle de Maupin について……………木俣 章

彙報

◇第四十二号 (一九八一年十二月)

翁と協能——先行要素とその変容……………三村 昌義

中世に於ける茶と水——『閑吟集』茶の

歌謡について……………菅野 扶美

萩原朔太郎論の前提——初期詩歌の問題

点……………市川 晴夫

劇作家としての李笠翁……………岡 雅樹

唐代の艶情小説——才子と佳人……………新谷 雅樹

ノーヴァリスの「黄金時代」——神秘体

駿と終末論の接点をめぐって……………中村 元

ホフマンスタールの『痴人と死』におけ

る「死」と「生」……………太田 隆 士

トーマス・マンにおける Bürgerlichkeit

——非政治的人間からのデモクラート

の誕生……………中村 昌 子

Georges BATAILLE «Madame Edwarda»

——テクストから余白……………阿部 静 子

シャルル・ヘギーの《ジャンヌ・ダルク》

……………田代 葆 美

Sir Orfeo as a Story of Growth……………松田 隆 美

Antony and Cleopatra——その悲劇構

成……………石川 実

「主題上の役割」を持たない位置の分布

について……………加藤木 能 文

集 報

◇第四十三号 (一九八二年二月)塚越敏教授退任記念論文集

韓国の仮面戲の場の考察……………野村 伸 一

『世間子息気質』成立の背景——益軒教

訓書との関連に及んで……………堤 邦 彦

李漁の戯曲とその評価

……………岡 晴 夫

王勃の詩について……………今 原 和 正

ペーメと自然の言葉……………進 藤 英 樹

グリル・バルツァー・初期作品の周辺

——シュライフオーゲルとミュルナ

……………佐藤 茂 樹

Hamlet dans un spectacle forain : le

Père châté de Stéphane Mallarmé

……………宮 林 寛

On the Use of the Historical Present

in the Gawain-Poems……………中 道 嘉 彦

“The Death of Richard Montgomery”

(1)……………松 本 典 久

塚越敏教授退任記念論文集

小さな自伝 履歴書に代えて……………塚 越 敏

業績書……………塚 越 敏

リルケと俳諧……………塚 越 敏

ヤーク・ヴィンプフェリング(上)……………尾 崎 盛 景

「ウアラマーン」をめぐる覚え書き……………中 田 美 喜

レッシングの無韻詩行戯曲のころみ……………宮 下 啓 三

「美しい鉱山」——ノヴァーリスと鉱山……………柴 田 陽 弘

パリのエピソードにみられる『マルテの

手記』の作品構造……………伊 藤 行 雄

論理とそれからの跳躍ヴァイニングアの

問題意識から照射したカフカの『城』……………岩 下 真 好

対立の力学——新聞のなかの文芸小品——井戸田 総一郎
初期リルケにおける神と事物……城 真一

Kosmos und „Ich“

Überlegungen zum Zusammenhang

von Metaphysik und Ästhetik……Volker Hensch

カールスバート決議とその前後……黒岩 純一

副詞の再検討……岩崎 英二郎

彙報

◇第四十四号 (一九八二年二月) 白井浩司教授記念論文集

第一部

アルジェリアを尋ねて——カシユの「異

邦人」の背景……片桐 邦郎

『背徳者』の両義性——消去されたテク

スト解説の試み……若林 真

バルザック『アルシの代議士』をめぐつ

て……高山 鉄男

上田 敏「うづまき」とスタンダール……古屋 健三

『異邦人を読む』——ムルソオの自伝とし

て……片山 左京

晩年のマラルメを読むために——その美

学と経済学をめぐって……立仙 順朗

一八九一年とバルザックの青年像……西尾 修

『ノートルダム・ド・パリ』における

石の詩学——ビエール・パヴェ・パリ

……小 湯 昭 夫

Prince des Sots にごよう……大 浜 甫

ワロント O. V. de L. Milosz の詩に

つづ——鍵と馬車と太陽……小 浜 俊 郎

ディドロとメルシエ——十八世紀パリ市民

生活の断面——「ラモールの甥」の一節

をめぐって……原 宏

Le motif de la canne qui murmure

……Hideichi Matsubara

Antigone-trône——La Thébaïde の

rimes 覚書……佐 藤 真

プールの集団画……末 本 友 和

Papillons et libellules——Marcel Proust

et Emile Gallé……Akio Ushiba

「ダレカ+名詞句」について……川 口 順 二

バルバー・ドルヴィーイにおける《半開

の構造……金 沢 哲 夫

シャルル・ペギーとアントナン・ラヴェ

ルニエ——De «Jean Coste»……田 代 葆

Notes sur les sourires proustiens……Junji Suzuki

第二部

蒲松齡と『聊齋志異』……村 松 暎

遊女・萩・月——芭蕉俳諧一掬……………檜谷昭彦
英国中世劇成立の周辺……………安東伸介

ヴィーラント『レディ・ヨハンナ・グレイ』

最初に上演されたブランクヴァー

スによるドイツ創作戯曲……………宮下啓三

第三部

白井浩司さんが定年だと云う……………横部得三郎

仏文科の初期……………松原秀治

何とも爽やかな白井浩司さん……………大久保洋海

白井さんと私……………二宮孝顕

先生にはじめてお会いした頃……………遠藤周作

白井浩司先生の宿題……………薩摩忠

“白井さん”と私……………平田敬

先生には酒場がよく似合う……………安部寧

白井先生と私……………浅利慶太

みっともない出会い……………高橋昌男

「白井浩司先生と私」……………石原優

白井浩司先生とわたし……………岡田隆彦

白井先生のこと……………山口昌子

白井先生とわたし……………志村節子

年譜(回想記風に)……………白井浩司

◇第四十五号 (一九八三年十二月)

『往生要集』と『源氏物語』……………斎藤暁子

嘘の歌謡——『閑吟集』の一特性について……………菅野扶美

釈迢空『安乗帖』と田山花袋『南船北馬』……………藤田叙子

——「海やまのあひだ」成立の一過程……………李商隱の無題詩について——その恋愛詩

を中心に……………詹満江

聊齋詩研究序説……………八木章好

クライストの『ミヒヤエル・コールハー

ス』についての一考察……………浦田智

ネルヴァルの世界の成り立ち——時間・

自己・物語——(1)……………水野尚

La perspective proustienne……………Akio Ushiba

Le Diable et Le Bon Dieu の *Dosia* に

ついて——Sartre における complexe

d'Edipe の問題……………永井旦

鏡の前の一人芝居——若きホフマンスタ

ールの肖像……………村井翔

ルートヴィヒ・ティークのノヴェレ観

——ビーダーマイアーに至るノヴェレ

観の諸相のもとに……………和泉雅人

“The Death of Richard Montgomery”

——(2)……………Fumihisa Matsumoto

The Catalogue of the Contents of

Reliquiae Antiquae

..... compiled by professor Fumio Kuriyagawa

and revised up to date by Takami Matsuda

and Keiko Shimomoto

彙報

◇第四十六号 (一九八四年二月)

大僧正隆弁——その伝と和歌	中川 博夫
窓の周辺——京極派歌風の一面	岩松 研吉郎
「死者の書」の主題	高梨 一美
蒲松齡兒孫鈔本聊齋詩草校勘記	八木 章好
坑夫は乏しい糧を坑内にもとめ——ゲー	
テとイルメナウ鉱山	柴田 陽弘
パノラマとしての「晩夏」	横井 展
想像力と構成の原理——Gérard de	
Nerval の “Sylvie” にこころ	鶴崎 明彦
ソナナ+Nについて——日西英対照	
.....	川口 順二
ヘルダーリンの詩『生のなかば』につい	
て.....	海老板 高
The Function of Rituals in Toni	
Morrison's Sula	勝田 薫
旅する女たち——Wilde 劇の女主人公	
における「自己形成」について.....	河内 恵子

The Waves における四大元素のイメー

..... 高津 昌宏

彙報

◇第四十七号 (一九八五年二月)

「エミリ・ディキンソンと寓意図」	梶野 緑
日本におけるルートヴィヒ・ティーク	
一八七八年と一九八四年	和泉 雅人
含意と法の助動詞	柳谷 啓子
カール・フィリップ・モーリッツの『ア	
ントン・ライザー』——「心理学小説」	
における敬虔主義と啓蒙主義の交差	斎藤 太郎
「サント・ブーヴ批判」から「失なわれ	
た時を求めて」へ.....	稲葉 竹俊
ジャン・ジオノと物語の諸問題	酒井 由紀代
ドイツ語の machen, lassen と英語の	
make, let による惹氣的表現の比較考	
察.....	中島 耕太郎
『落窪の草子』の成立	石川 透
『保元物語』配流者説話について——数	
奇と王法意識に関らせて.....	須藤 敬
近世怪異小説と伝書・その1——殺生の	
現報をめぐって.....	堤 邦彦
廬隱の作品にみる社会問題意識.....	中本 百合枝

彙報

◇第四十八号 (一九八六年三月)

インターアクティブ・フィクション

——新文学の卵

Andrew Armour

談話とパラグラフ——談話構造における

写像の問題——

……大堀 俊夫・高橋 悦子・山田 あき・柳谷 啓子

シェイクスピアのソネット20番における

錬金術的象徴体系……小 関 恵 美

シルヴィア・ブラスの詩にみる女性像

ポッツォーリの貝——ゲーテの海……渡 辺 桃 子

シェリング『芸術哲学』における神話論

……柴 田 陽 弘

晩年の Nerval (2) 《時の重層化》

——Lorely……高 橋 秀 誠

ディドロの『ラ・カルリエール夫人』を

読む……水 野 尚

新資料 咄本『軽口こらへ袋』解題・翻

刻……檜 谷 昭彦・石川俊一郎

後藤基綱・基政父子(一)——その家譜と

略伝について……中 川 博 夫

光源氏像形成における「院」——その居

宅はなぜ「院」と呼ばれるか……阪 井 芳 貴

『聊齋志異』の「癡」について……八 木 章 好

◇第四十九号 (一九八六年七月)

「悪態」の考察——言語表現の芸能化を

めぐって

西 村 亨

神と巫女の間——沖縄国頭地方の事例を

中心として——

高 梨 一 美

南宋「説話四家」について

英語の量的変化動詞

ウィリアム・モリスの歴史観——その夢

物語をめぐって

横 山 千 晶

ノヴァーリスのインド受容

火山の海と熱い沈殿——ゲーテの玄武

岩——

柴 田 陽 弘

『背徳者』における迷宮の構造

◇第五十号 (一九八六年十二月)

鴨外・漱石の近接について——『草枕』

『生田川』・『青年』——

織 田 直 子

校本『新和歌集』(上)

後藤基綱・基政父子(二)

西鶴晩年の動向

楊柳小考——柳の民俗、中日比較の視点

から——

大 石 直 記

慶応義塾大学聊齋文庫所蔵 聊齋志異鈔

本残巻について……………	八木 章好・山田 秀二
形式至上主義に対する反駁とその行過ぎ ——『高慢と偏見』におけるジェイン・	
オースティンの社会批評——	三 馬 志 伸
クライスト作『ホンブルク公子』——現 代におけるその作品解釈の可能性をめ ぐって——	阿 部 雄 一
アントン・ライザーの自然体験……………	齊 藤 太 郎
ジオノと物語の諸問題——『気晴らしの ない王様』——	酒 井 由 紀 代
彙 報	